

## こんな難しい話はない

入江 経一

小林先生のご退任へ何か文を寄せよ、のご依頼があった。こんな難しい話はない。

小林先生とは10年以上もIAMASで講義を共にさせていただいたが、絶えず学術的関心を逸脱し続ける先生の諸活動は私の認識を超えており、その全貌すら掴み難いのである。

- ・古典芸能、落語を始め、舞踊、能、文学、歴史。
- ・そもそも大学では医療を学ばれておられる。
- ・実際の講義での途方もない知識の量と滑舌を駆使されるあのパフォーマンスを、簡単にまとめることはできない。
- ・それ以外にも膨大な関心を周囲に寄せておられる。研究室はフィギュア、アイドル歌手、映像ライブラリーその他でいっぱいである。
- ・図書館長もされていたから、書物への造詣はこれまた深い。
- ・東京の神楽坂のご実家が、かの落語家古今亭志ん朝の家の近くだった。そこから生まれる多くのエピソードがとんでもなく面白い。

そんな多次元な横の世界の広がり、歴史の時間を現代から過去へと遡る縦の奥行き空間との球体、が小林先生であると言うしかない。

それをきちんと整理するならば、一冊の百科全書になる。もちろん私の手には余るし、それを描くのは小林先生しかいないのである。

整序からこぼれ落ちるいくつかの断片（順不同）

- ・ファッション：昔はいつもきちっとスーツを着こなされて、それを戦闘服と表現されていた。ところがある時からTシャツに置き換わって吃驚した。この変化の理由はわからないが非可逆的なもの

だった。

- ・講義 Keynote：講義はいつもKeynoteで制作された動画で行われる。画面のデザインもパワーポイントなどとは一線画しており、多用されるトランジションと受容限度をこえた喋りの情報量によって、学生は居眠りはおろか覚醒され続ける。
- ・プリント：講義で配布されるプリントは、びっしり両面に印刷されたテキストと画像の資料である。すべて集めればそれだけでも本にできる。
- ・動画資料：小林先生の所有する映像ライブラリーがまたすごいのである。講義の中ではKeynoteの合間に多くの貴重なビデオ資料、映像資料が上映される。中にはモノクロのとても貴重な映像などがあり、それらを見る事はまさしく至福の時間と呼んでも過言ではないのである。



いりえ けいいち

1950年生。建築家・工業製品デザイナー・デザイン教育者。

1974年、東京芸術大学美術学部建築科卒業。

1976年、同大学大学院修士課程修了。大学院時代に建築評論家の多木浩二と出会い、ニューヨーク近代美術館【MoMA】での都市展（1975）に向け1年半のリサーチと制作にかかわり、都市フィールドワークとその理論化を図る。

1975年、ニューヨークで展示発表を行う。

1976～1980年、東京工業大学篠原一男研究室。

1980年、入江建築設計事務所設立。1987年、パワーユニットスタジオに改称。

職歴

多摩美術大学美術学部教授、

岐阜県立情報科学芸術大学院大学教授、

神戸芸術工科大学大学院教授・芸術工学部映像表現学科教授を歴任。

東京芸術大学非常勤。